

第653回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 長野県千曲川流域下水道上流処理区終末処理場（アクアパル千曲） …………… 長野市真島町

- 千曲川流域下水道は、生活環境の保全と河川の水質保全を目的として、上流・下流処理区の2処理区で事業を進めている。上流処理区は、長野市南部・千曲市・坂城町を区域とし、現在の処理区域内人口は約18万人、整備面積は約6,200ha、流域内下水道普及率は97.2%である。
- 上流処理場は、ラテン語で水を意味する「アクア」と、英語で“仲間、友達”を意味し、イタリア語では、公園を意味する「パル」から、水と緑に囲まれた自然豊かで、市民に親しまれる施設となるよう「アクアパル千曲」と命名した。
- 平成8年10月の供用開始から順次整備を進め、現在5系列で日最大処理能力62,500m³の設備で運用している。汚泥処理は、濃縮、消化、脱水、焼却の順で減量化を行っている。焼却は、流域下水汚泥処理事業により、隣接する長野市東部浄化センターの脱水ケーキを受入れ集約処理している。
- 下水道事業経営戦略を策定し適正な事業運営及び計画的な施設の機能向上、改築更新、耐震化、エネルギー有効利用等に取り組んでいる。



2. 川中島水道管理事務所 …………… 長野市川中島町

- 深さ100mの井戸15本で地下水を汲み上げ、浄水処理を行い水道水としている。浄水能力は最大52,000m³/日、平均浄水量は約27,000m³/日。
- 長野県企業局では、災害時に周囲が断水になっても「そこへ行けば必ず水が飲める」との安心感を地域の方々に持ってもらうための応急給水拠点「安心の蛇口」（全20箇所）を順次設置している。
- 災害時の備え、災害の支援等を目的としたペットボトル「川中島の水（非売品）」も製造している。



3. 長野市犀川浄水場 …………… 長野市差出南

- 昭和4年、犀川の伏流水を、新設した夏目ヶ原浄水場で緩速ろ過するため、犀川水源ポンプ場を設置。
- 昭和35年、更なる水需要に対処するため、犀川水源ポンプ場自ら30,000m³/日で急速ろ過を開始し、犀川浄水場となった。
- 昭和49年には犀川上流の大町ダムの建設により、100,000m³/日の貯水権を得た。これにより、現在までの取水能力は、ダム水の一部で小田切ダムより取水している30,800m³/日とその他の伏流水などを合わせると64,220m³/日となり、長野市最大の浄水場である。



4. 長野駅周辺のまちづくり

..... 長野市栗田周辺

○長野駅善光寺口駅前広場整備事業

- ・北陸新幹線長野金沢間の延伸開業に合わせ、交通結節点としての機能充実、新たなまちの顔として善光寺口駅前広場の再整備を実施。
- ・整備目標として交通結節点としての機能充実、県都の玄関口にふさわしい「長野の顔づくり」、にぎわいを創出する拠点として整備を実施。
- ・デザインコンセプトとして、歴史・伝統と自然を活かした、長野らしい「おもてなしの心」を駅前広場で表現。信都長野の玄関口にふさわしい長野の門を表現した大庇、列柱と、善光寺にゆかりのある如是姫像を据えた中央広場が、来訪者をお迎えし、長野の存在感を全国にアピール。
- ・誰にも優しい歩行者空間の整備として、バスロータリーは雨に濡れず降りや移動できるシェルターを設置し、積雪時の円滑な通行ため、無散水融雪施設（地下水還元式）を埋設。
- ・駅ビルの整備に伴い、善光寺口と東口を連絡する自由通路上に広場の接続部に1箇所、善光寺口広場の接続部に2箇所の上下方向のエスカレーター、さらに1基のエレベーターを設置し、移動の円滑化を図った。



○長野駅周辺第二土地区画整理事業

- ・事業区域は長野駅東口としての立地条件と都市化のポテンシャルの増大等により無秩序な発展が進み、生活環境の低下や、防災上支障をきたしており、円滑で機能的な都市活動と適な都市生活の実現のため、都市機能の高度化、基盤整備の充実を図る必要があった。
- ・事業はJR長野駅の東口に位置する58.2haの地区で、平成5年度から土地区画整理事業に着手し、「長野都心の新しい拠点」としての形成を図り、土地利用の誘導や、広域交通の整備に対応した都市基盤の整備を進め、環境の優れた個性豊かな街づくりを実施。

